

老朽原発延命工事の中止と 「原発ゼロ法案」の審議を求める 哲演の断食日記

(小浜市) 中嶋 哲演

2月25日(月) 断食前日

早朝6時43分、東小浜発の電車に乗車し9時前に福井に到着。

10時より福井県庁記者会見室で、私の「声明」、断食行動を共にしていただく石森修一郎氏(県庁前で5年間抗議行動を続けている)の決意表明、同席者4人(嶋田千恵子、小野寺恭子、五十嵐正夫、松本浩の各氏・オール福井反原発連絡会のメンバー)も一言づつ。出席の記者—『福井』『県民福井』『中日』『毎日』『共同通信』ほか2社(社名、確認しそびれ)

11時より県議会事務局小林里代次長に県議会山本文雄議長宛に「声明」を手渡す。石森氏、嶋田氏発言。同席者は上記4人、佐藤正雄県議も同席。『赤旗』の取材。

11時30分より佐藤県議の取り計らいで県原子力安全対策課前田泰昌参事に西川一誠知事宛の「声明」を手渡す。

正午から閉庁の5時前まで、県庁ロビーで今回、共にハンストに入る石森氏のこれまでの多彩な半生の経験を伺い、有意義であ

った。

夜は福井市正行寺(芦野順介・住職)に宿泊。

2月26日(火) 断食初日

今朝より断食開始。

7時30分から8時30分、県庁前で、通勤や通学の人通りが最も多い時間帯に石森氏恒例のスピーチに参加。昨日の記者会見で『毎日』『中日』『県民福井』『赤旗』の報道あり。8時30分から16時00分まで、県庁ロビーにて石森氏と断食に入る。沖縄の辺野古基地埋め立て反対の県民投票支援に行っていた奥出春行氏ロビーに来訪、沖縄の話聞く。



県庁ロビーでハンスト中の石森氏と(奥出さん撮影)



断食に向けた思いを話す中嶋哲演さん—県庁で

反原発訴え断食へ

きょうから小浜の中嶋哲演さん

40年超の運輸が認められた関西電力の高浜ゼロ基本法案の早期原案1号(高浜)高浜審議入りも呼びかける町」と美浜原発3号機を一つの目標とする。

(美浜町)の断食を求め、小浜市の明彦等で期間中は毎日エネルギ政策の転換を考えると、断食は断食の会議に参加するほ

を始める。例外的に認められた運輸延長、非暴力による不服従の姿勢を示す。関電の原案は主な電力供給先を関西圏としてお

り、中嶋さんは「老朽原発再稼働の要不足される見直しを発表してを、都市部の人たちにも伝えたい」と話し

た中嶋さんは「今から断食を増やす動きが、他の原発も再稼働式あった1977年に県庁前などで1週間決行されたのが初めて、7回」と述べ、断食に入

目的の今回は、昨年3月の決意を強くしてい

に立憲民主などの野党だ。【天森治幸】

(4)

明日以降の行動打ち合わせの電話連絡。東京の柳田真氏(たんぼぼ舎)、西尾漢氏(はんげんぱつ新聞)、名古屋の安楽知子さん(老朽原発40年廃炉訴訟市民の会)、京都の木原壯林氏(若狭の原発を考える会)、大阪の池島芙紀子さん(ストップ・ザ・もんじゅ)。大阪の水戸喜世子さんから激励の電話。『朝日』の取材。

16時22分、福井発の電車で小浜に帰寺。早めに就寝。

2月27日(水) 断食二日目

6時43分、東小浜発の電車に乗り東京へ。11時過ぎ東京駅に到着。衆院議員第一会館に行き、ロビーで池島芙紀子さん、富山洋子さん(ストップ・ザ・もんじゅ)と「核燃サイクル政策の中止を求める」国会議員訪問の打合せ。

12時30分より14時頃まで、菅直人議員。阿部知子議員(立民)、志位和夫議員(共産)、辰巳孝太郎議員(共産)3氏は秘書に要請。

14時、車で移動し、たんぼぼ舎で再稼働阻止全国ネットのメンバー12人と会合。

15時30分から17時まで、参院議員会館で阿部知子議員(立民)、吉良よし子議員(共産)、福島瑞穂議員(社民)に要請。

17時から18時半頃まで、菅議員を再訪。明日要請する経産委員訪問について相談。

19時30分、東京のホテルへ、疲れたので早めに就寝。

2月28日(木) 断食三日目

9時、衆議院議員第一会館へ、菅直人議員の秘書・菅源太郎氏と打合せ。

10時30分頃から「原発ゼロ法案」審議予定の経済産業委員会の委員・泉健太議員(国民)の秘書と面談。宮川伸議員(立民)は留守、笠井亮議員(共産)とは直接面談。

12時から立民党の有志議員の勉強会・10余名の席で、冒頭にアピールをさせてもらう。13時から経産委員会の委員長・赤羽一嘉議

員(公明)の秘書に声明と資料を手渡す。理事の梶山弘志議員(自民)の秘書にも声明と資料を手渡す。理事の落合貴之議員(立民)は留守。理事の斉木武志議員(国民)の秘書と面談。理事の富田茂之議員(公明)の秘書に声明と資料を手渡す。

15時より菅議員の部屋で記者会見(『朝日』『共同』『日経』の取材)。

16時00分から30分、第76回国会エネルギー調査会(準備会)の冒頭時間のみ出席。

その後東京駅へ行き、「のぞみ」で名古屋着18時43分。

19時から21時頃まで名古屋第一法律事務所まで老朽原発40年廃炉訴訟の弁護士3名とその支援組織グループ代表4名と意見交換(『中日』の取材あり)。名古屋泊まり。

東日本大震災8

福井の原発免状職「フクシマ忘れぬ」
名古屋で断食

東日本大震災から八年を覚えるの直前に、反原発運動を続ける福井県小浜市の切通寺住職、中島若狭さん(せま)と写真『が、名古屋市内で、脱原発に取り組み関係者』と面談した。中島さんは「フクシマ」の一人一人が故郷を根こそぎ奪われ、深刻な被災の渦中にあることを忘れ去り、風化させてはならないと訴えた。中島さんは「二月二十六日から通算七回目の断食中。」



断食中、同二十七日、二十八日、東京都内で国会議員らに工事中止などを求めて要請してきたと報告した。原発問題について「便利で豊かな都市文明の繁栄のために、過剰地へ過剰な危険を強いてきた現実」を指摘した上で、「原発被害の若狭で生きて来るを諦めなかった一仏教者の私は、「自己一如、自利利他の円満、精神に照らしながら、そうした現実を問い直してきた」と高及、「断食は非暴力の典型で、共感を得られやいと思う。不特定多数の人に原発問題を考えてもらおうとかけがえのない言葉だと話した。」

中日新聞 2019年3月7日(木)

3月1日(金) 断食四日目

11時過ぎ帰寺し、資料整理、静養。4日の大阪・関電本店前での行動について関係者との連絡。

3月2日(土) 断食五日目

11時から天徳寺副住職の結婚式に戒師として参席。

12時過ぎに帰寺し、静養。

16時過ぎ神戸へ、19時過ぎにホテル着。宿泊。

3月3日(日) 断食六日目

8時30分から「日本環境会議神戸集会」に参加。徐本理史、大島堅一両氏と会う。

9時から11時、「第一分科会」で20分間の報告とアピール。

11時から12時、「全体会」。290余名が参加。

13時半から16時半、神戸市勤労会館で、武藤類子さんの講演会に参加。約10分時間を与えられ、発言とアピール。約100人の参加者と交流。

19時過ぎ、大阪のホテルで宿泊。

3月4日(月) 断食七日目

10時20分頃、関電本店前着。

11時から、関電社長宛に断食声明と資料を庶務課の社員に手渡す(ロビーで5人に限定される)。正午まで報告集会に37人。

その後、13時30分頃まで4人の方と交流。

14時43分大阪発の電車に乗り、16時前に東小浜着、帰寺。

3月5日(火) 断食八日目

全日、寺にて静養。

今日までの活動を援助していただいた方に簡単な経過報告とお礼のFAX。

3月6日(水) 断食九日目

全日、寺にて静養。

3月7日(木) 断食第十日目

全日、寺にて静養。

奈良と岡山の3・11集会へのメッセージを作成しFAX。

3月8日(金) 断食十一日目

全日、寺にて静養。

3月9日(土) 断食十二日・終了日

朝9時過ぎ、松本浩氏の車で「3・11メモリアルアクションー原発のない福井へ」集会参加のため出寺、12時過ぎ、会場着。

集会の共同代表として「閉会挨拶」と兼ねて、「断食終決」の報告とお礼を述べる。

- ・本日ご参集いただいたすべてのみなさん、とくに福島から駆けつけてくださった伊東達也さん、有意義なご講演をいただいた原白連・副会長の中川秀直さんに心から感謝申し上げます。屋上屋を重ねるような、本集会の要約は控えさせていただきます。
- ・さて、2月26日より開始し、12日間に及ぶ私の断食は本日をもって終結いたします。この間、多くの方々にご心配をかけ、あたたかいお心遣いをいただき支えてくださいましたこと、感謝に堪えません。ただ、私は断食を決して自己目的としていた訳ではありません。その目的と理由、問題提起の方にこそ、みなさんに注目し、声と行動を広げていただくことを切に願っておりました。その二つのひかえめな目的が今回の断食によってかならずしも実現したわけではありませんが、その緒についたことは信じたいものです。
- ・「断食声明」で詳しく述べておりますが、二つの目的(問題提起)の要約を、ここでみなさんと共に再確認させていただきます。

① 関西電力は老朽炉(美浜3号、高浜1・2号)の延命工事中止を!(→延命か、廃炉かの再検討を! →廃炉への英断を!)

関西電力は、何れも巨費(美浜は1650億円、高浜は2150億円)を投じて、延命工事を強行しています。(一方、廃炉費用は、美浜3号は490億円、高浜1・2号は各450億円。)ご承知の通り、工期が遅れ、再稼働は来年一再来年にずれ込んでいます。この工事中止なくして廃炉は不可能で

(6)

しょう。関西電力の原発電力の大消費圏のみなさんに、まずは延命工事中止の声を上げ、岩根関電社長に迫っていただきたいのです。

② 国会は「原発ゼロ法案」の審議開始を！
(→ 徹底審議を！ → 制定へ！)

「原発ゼロ法案」は昨年3月に国会へ上程されたにもかかわらず、それを付託された経済産業委員会は一度も開かれていません。この法案では、原発を廃止した場合、事業者（電力会社等）への支援、原発経済に依存してきた地元・周辺地域への支援を講ずることを明記しています。徹底審議において、一般論的な議論だけでなく、①の問題をモデルケースとして具体的に審議することを、私は強く要請している訳です。県内をふくめ全国で地道に展開されているあらゆる反・脱原発の運動体のみなさんが、このすばらしい「原発ゼロ

法案」に注目し、審議開始、徹底審議、制定への声と行動を広げていただきたいのです。

・現在の理不尽な強権下で、原発延命や核燃サイクル強行への暴走が進んでいますが、国民絶対過半数の再稼働反対などの世論を背景に、「原発廃止・エネルギー転換を実現するための改革基本法案」（原発ゼロ法案）がいよいよ国会審議の俎上にのぼる時代を迎えてもいます。「第二のフクシマ」を断じて繰り返させないために、「原発のない新しい福井へ」向かって確固たる歩みの輪を広げてまいりましょう。

合掌

18時、帰寺。

本日をもって、12日間の断食を終了。

原発ゼロ社会訴える 福井 トーク集会やデモ行進



原発ゼロと自然エネルギーへの転換を訴える
中川氏＝9日、福井市のフェニックス・プラザ

東京電力福島第1原発事故から8年になるのに合わせ、県内の反原発団体などによる集会「3・11メモリアルアクションー原発のない新しい福井へ」が9日、福井市のフェニックス・プラザで開かれた。福島県の被災者らによるトーク集会とデモ行進で原発ゼロ社会の実現を訴えた。

わき市の伊東達也さんが「避難指示が解除された町に帰ってくるのは高齢者ばかりで、青年や子どもは極端に少なく深刻な状態」と、厳しい現状を報告した。

元自民党幹事長で高速増殖原型炉もんじゅのナトリウム漏れ事故直後に科学技術庁長官を務めた中川秀直氏が講演。一当時、敦賀の市民とも語り合い対話に努めた。ただ、原子力の平和利用は日本に必要なと考え、その推進の先頭に立っていた」と振り返り「福島」の事故以降、いかにつそだったかと痛感した。大きな誤りだった」と心境を語った。

中川氏は昨年、小泉純一郎元首相らと「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」をまとめた。「これを参考に野党4党が『原発ゼロ基本法案』として国会に提出した。原発のない、安全な国土を未来に残すことはわれわれの責任」と述べ、自然エネルギーへの転換を訴えた。